目次

▲論說
迎年の辭
迎年所感
製炭法の研究
▲雜錄
▲隨筆
寢言、
▲評論
辯論會に臨みて
▲通信
學校便り
會員消息
蘇門會便り
▲雜報
特別廣告
寄贈書及寄付金
雜誌費領收報告

第六拾三號
大正四年一月二十五日
毎月廿五日定期刊行
明治四十三年七月十日第二種郵便物認可

生徒募集廣告

來四月本校第一學年ニ入學スベキ生徒約五十名募集ス
入學手續ハ左記ノ通リ
大正四年二月
長野縣立木曾山林學校

○入學手續

本校ニ入學セントスル者ハ入學願書ニ履歷書戸籍謄本及體格檢査書ヲ添ヘ來ル三月廿日迄ニ差出スベシ其樣式左ノ如シ

入學願書（用紙美濃紙）

御校ヘ入學志願ニ付御許可被成下度履歷書及身體檢査書相添此段願上候也
年　月　日
何府縣何郡市町村何番地居住
何府縣族稱誰子弟
入學志望者　何　某印
仝　上
右父母後見人　何　某印
長野縣立木曾山林學校長七宮純雄殿

履歷書

本籍、何府縣何郡市町村番地族稱戸主又ハ誰子弟寄留地何府縣何郡市町村番地
何　某印
生年月日

學業

一、何年何月ヨリ何學校ニ於テ何年修業若クハ卒業（證書ノ寫ヲ添フベシ）
一、何年何月ヨリ何年何月迄何處何某ニ就キ何學ヲ修ム

賞罰

一、何年何月何處ニ於テ何事ニ付賞又ハ罰
右之通リニ候也
年　月　日

身體檢査書

本籍　何府縣郡市町村番地族稱
寄留地　仝　上
何　某
生年月日
一、體格　一、身長　一、體重
一、胸圍（常時充盈　空虛）　一、視力　一、痘
年　月　日
何病院長又ハ開業醫何某印

○入學資格及試驗

入學資格左ノ通ヲ

一、年齡滿十四年以上ノ男子ニシテ高等小學卒業若クハ中學第二學年以上修業又ハ右同等以上ノ學力ヲ有スル者

二、身體健全ニシテ規定ノ學科ヲ修ムルニ耐フル者

三、品行方正ニシテ林業ニ從事セントスル志望確實ナル者

四、在學中學資ヲ辨シ得ル者

右第一項末段同等以上ノ學力ヲ有スル者ノ外無試驗入學ヲ許可ス但シ入學志望者ガ募集定員ニ超過スル時ハ應募者全體ニ就テ試驗ヲ行フ其程度ハ高等小學卒業ノ程度ニ於テ國語、算術、理科ニ就テ試ム

若シ願書差出期限迄在學中ニシテ三月末迄ニ卒業若クハ修業見込ノ者ハ其旨記載セル當該學校長ノ證明書ヲ願書ニ添付スベシ

○入學試驗場

試驗ハ本郡ノ者ハ本校ニ於テ其他ノ者ハ其地郡市役所ニ於テ執行ス後者ノ場合ノ者ハ入學願書ニ添ヘテ受驗地ヲ届出ヅベシ

○試驗期日

試驗ハ四月四日午前九時開始

○注意

試驗當日ハ洋服若クハ袴着用、筆硯、鉛筆、小刀、用紙等携帶ノコト

尙本校入學ノ栞入用の者は二錢切手封入申込まるべし

論說

迎年の辭

七宮純雄

鳥兎匆々歲月流るゝが如しとかや實に多事多端なりし大正三年も既に過ぎ去り茲に多望なる大正四年の新春を迎ふるに際し聊か所感を述べて迎年の辭となさんとす

回顧すれば昨年は年頭より年末に至る迄凡る月として事變の發生せざるはなく而かも事態極めて容易ならざる突發事件の續發せしは蓋し古來稀に見る所なるべし就中吾人の腦裡に深く刻まれ記憶に尙ほ新なるは申すも畏きことながら　先帝陛下登遐あらせられ御諒闇漸く明くるも追慕の涙未だ乾かざるに四月十一日重ねて　皇太后陛下神去りましまし皇室の御悲歎は申すも更なり六千万の臣民悲痛の極慟天哭地せしことは勿論越へて八月歐洲大動亂起るや帝國も新に此世界的紛亂の渦中に投ぜられ世は尙ほ未だ　國母陛下の御諒闇中にあるに係はらず八月二十三日を以て遂に全く日獨國交斷絶し互に干戈を執り砲火を交ふるの止むなきに至りしことなるべし而して日獨交戰は我が叡聖文武なる　大元帥陛下の御稜威と我が精鋭なる陸海軍將卒の忠實勇武とにより十一月七日難攻不落の稱ありし青島の堅壘を拔き次で南洋に於ける獨領根據地を占領し茲に全く東亞に於ける獨乙の軍事的策源地を掃蕩し一見忽ち終局を告げたるが如き觀あるも歐洲大戰亂の全く平定せざる間は唯一局部の終局に過ぎずして世界的平和を見るまでには前途猶ほ遼遠なるを覺悟せざるべからず嗚呼昨年は最初諒闇明けの新年として且つ御即位の大典を行はせらるべき慶賀すべき新年として迎へられしも實に束の間にして彼の所謂シーメンス事件なるものの起り內閣の更迭となり更に再び諒闇となり或は櫻島の噴火愛鷹丸の沈沒各地暴風雨出火等の天災地變續發し最後に所謂十年一遇の戰爭となり其局未だ全く終らざるに帝國議會の解散となりて暮るゝに至りしとはさてもさても多事多難なりし年なる哉

然れども翻つて考ふるに是れ等大小事件は總ての點に於て國民の大なる覺醒を促し國威宣揚の基礎となり大正四年をして益々多望ならしめたるは吾人の深く信ずて疑はざる所なり吾人此の光輝あり希望ある新春を迎ふるに當り宜しく大に自覺し陋習を打棄し小なる自己に囚はれず常に眼を大局に注ぎ益々實力の養成に發奮努力せんことを覺悟すべきなり終りに臨んで會員諸君の健康を祈る

迎年所感

高樋生

三千年の榮譽ある歷史を有する我帝國が悠忽として世界的に一人前となりたる乎の感ある記憶すべき甲寅を送り光輝有り度き而して有史以來の最も危機と稱せらるゝ乙卯を迎へた焉

或る知名の學者が累卵の日本……と云はれた世間狹き吾々も實に同感ならざるを得ない　洵に不祥事なれども欺かざる告白をすればソウである

歐洲併呑延ては全世界に覇を稱せんとの大野望を懷けるミリタリズムの獨逸は其隣邦墺國を從へて百八十餘個師團三百六十餘萬の大軍と百數十億の巨費を投ずて世界の强國と云ふ强國を東として向ふに廻はし健鬪を續け今日尙殆んど一歩も外敵の侵略を受けざるの狀態に在り如何に協商國側の揑造的戰報に醉へる我儕と雖も今日迄の戰勝は獨逸に非ずとは云ひ能はぬ

而して陸軍側から漏れた所に依れば獨逸は今日迄は當然然かるべき期定の行動を採りつゝあるものと信じ飽く迄併呑主義の爲めに擧國一致奮鬪の覺悟で最後の勝利はゲルマン人種の上に來るものと信じて居ると乎嗚呼其の頑健其確信轉た嘆美に値せずや

而して月の巴里を一蹴に附し華の龍敦にユニオンジャックの徒を蠶弄し雪の露西亞のモスコーに紅染めて全歐洲を鎧袖の一觸に天下を併すべき天賦の素質と覇氣とを兼ね有する獨逸帝國の醒き風に崩さゝるに蹂躙せんとして蹴起せる英露佛協商國二百個師團四百餘萬の大勢と漸次補充せる兩軍の總てを合算する時は實に一千百餘萬に達すとか恰も日本帝國六千万同胞の約五分の一を以て半球を擧げての壯擧亦振古未曾有の大出來事たるべく寔に壯絶快絶と稱せざるを得ない

而して此の半歲に亘る大活激に何等の疲勞を見せず加かも最後の勝利を確信せる大帝國に戰を賣り十數年間營々として巨億の資を投じて築造せし彼の根據地を奪取し　大奈翁を以て自認せるカイゼル陸下をして切齒扼腕必ず復仇せざるべからざるを決意せしめた我國も今日よりは賴むは獨り我國民の力のみ　英も露も米も最早我味方では無い茲を思へば乙卯の新年は實に有趣味で有らねばならぬ

我國は建國以來幾多の困憊と盛衰とを切り拔き來つた　併し今日程重任を帶んだ國民は有るまいと思ふ、嗚呼亦壯なる哉だ此時に生を承けた吾人は實に過去三千年來の最幸福者と云はずばなるまい

由來我國の國是は開國進取なり　苟も國是に障碍を與ふるものは其何國たるを問はず之れを追擊し得る天賦の資を有しも居る敢て北捨南進と大陸發展とを問はない、或は我が蘇門の發展が示せる北守南進が或る種の諷刺たるやも知れない、要するに我々は進んで進んで大々的に進取性を發揮せざるべからずだ

乍併吾々は今只々吹き雲くつて見た所で何にもならない、吾輩の世界的の日本を語るのも畢竟は此の難局に處する斷案の前提なるのみだ而して吾輩の振古未曾有の重任を帶べる一分子なる自己に誨ゆる所而して亦諸君の御一考を望む所は曰く

其一刻を一層有利に消化せよ　と云ふに在り余は如何に椽大の筆を呵し如何に名論を稱ふるも今の世に處する第一は最も手近かの其一刻を一層有益に過せと云ふより外ない事を信ずる、僕自身は時間を徒費する事中々多い、當然來るべき執念深き頑健なる北國武夫の獨逸を始め英米支の何れとも又如何なる時にも鎬を削りて光輝ある日東大帝國を保持すべく我々は一層貴重の時を有効に消化し度く思ふ、之れが吾輩の迎年所感である

乙卯一月十八日　長野市諏訪町に於て

製炭法の研究（二）

北村正夫

其二　製炭法の研究に熱中す

校友諸君昨年の暮は近年にない不景氣であ

つたが福嶋は前の火災の影響もあつて殊に不景氣で逢ふ人毎に愚痴を聞かされた僕も此の不景氣な周圍の空氣に感化せられたのか前號では甚だ不景氣な失敗の愚痴を連ねたが本年は卯の年である兎は前脚が短くて山坂を登るに都合がよい即ち本年は向上的の年柄であるから此初號では大に景氣の好い處を書いて見たいと思ふ

僕が三十八年の秋から製炭法の研究を始めた其兩三年の間主として地方の炭燒夫に就て在來法を研究して大体を了解したから四十年頃から田中式や檜崎式の改良製炭法の實地研究を始め自分に炭竈も築造し眞黒になつて實地の作業を練習した、相變らず初めの内は盛んに失敗をやつたが漸く經驗を積むに從ひ殆んど理想的の良炭を製造することが出來る樣になり在來法に比較すれば遙かに優良の成績を擧ぐることを得殊に檜崎式の改良製炭法は点火をなす煩勞少く炭質も頗る上等であるので主として此の方法を研究した結果四十三年頃には第二の檜崎と人も許す位に上達した

校友諸君自惚と○○の無いものはないと云ふが數年前迄は白炭と黑炭の區別さへ知らず最も火に弱い花崗岩で造つた炭窯で赤松材の白炭を造ろうと云ふ前代未聞の新記錄を作つた僕が今や第二の檜崎と云ふ程の自信を得るに至つた此の當時の得意は必ずしも自惚のみではなかつたのである若し僕にして外國文を草することが出來たなら博士論文を書て三村博士よりお先きに御無禮をして居たかも知れん

斯樣に僕は既に研究時代を脫して之から實行の時代に入る必要を感じた否僕の自負心の此儘では滿足することが出來なかつたのである、遂に四十三年の秋から鄕里土佐の持山で經濟的に經營することになつて僕は顧問兼教師と云ふ格で鄕里に居る伯父が經營の衝に當つた、相變らず初めの一二回は失敗したが三回目から上等品が出來たので之れを郡役所其他へ見本として送つた、ところが何れからも在來品より非常に上等であると云ふので大に賞賛を博し郡長の如きは本郡が卒先して製炭の改良をなすは誠に名譽であると喜ばれ其普及や製品の販賣等に就ても特別の助力を與へられ四十四年には改良製炭組合を組織して伯父が組長となり製品の依托販賣をも引き受ける樣になり又檜崎翁をも招いて數ヶ所で改良製炭法の講習會を開き品評會を開催する抔極力其普及發達を計られた

此當時次の樣な製品の發賣廣告を印刷して各村役場や工場並に有力者に配布した

檜崎式改良木炭製造發賣廣告

私は長岡郡東本山村に於きまして昨年十二月から檜崎式改良木炭を製造して居ります偖て改良木炭とは如何樣のものかと申せば別に大した變りはありませんが先づ一見した所では普通の在來法で燒た炭と違ひ上の方に白い灰を冠つて居りません即ち一本の炭に就て何方が上やら下やら判らず一体に鉛色を帶び木口は菊形の割目を生じ之れを打てば金屬の如き音響を發し何樹の木にて製したるものと雖も燻煙爆發をなす憂なく火付火持宜しくして之れを手に採るも決して炭粉の手に付かぬと云ふのが即ち此檜崎式改良黑炭の特色であります

目下私の製造して居りますのは左記の種類であります而して每俵烙印した木札を附し別紙の如き内票を挿入し相當の責を帶び左記の代價を以て發賣致します故何卒御試驗を蒙り度葉書を添へてありますから多少に拘らず御注文下されたく伏して願上げます

住處　改良木炭製造發賣人　氏名

改良木炭の種別及價格

一、極立　樫立通し　一俵代價　何錢
一、中上　檜等立通し　仝　何錢
一、並上　雜木立通し　仝　何錢
一、並　各種折込　仝　何錢
一、粉炭　仝　何錢

（別紙）内票として木炭に付す

此炭御試驗の上續々御注文願上候而して若も目方に不足あるか又は燻煙飛火等の不都合有之候節は速かに御通知被下度中間不正の行爲に罹らざる限り相當辨償又は代金返戻可致候

年　月　日

住處

改良木炭製造發賣人　氏名

此廣告を發送してからは注文の來ること實に盛んなもので隨分澤山に準備してあつた木炭も忽ちにして品切れとなつて折角の注文に應ト切れないと云ふ有樣で之れがために同業者に照會して製造を促す抔實に多忙を極めた、少し無理かも知らんが景氣のよい不景氣と云ふ文字は此の時の摸樣を云ひ表すに格構な語であろう。

こう云ふ風に僕の改良製炭は非常な勢を以て發展した丁度兎が山頂に向つて走せ登る樣な勢で進んだ……思へらく土佐は從來木炭の產額多く大坂神戸等の大市場に於ても土佐炭は優位の位置を占めて居る而して自分は土佐に於ける製炭改良の元祖である將來此の改良製炭法が普及するに至つたなら僕は檜崎氏等と共に土佐製炭事業改良の功勞者の一人に加はるの光榮に浴することが出來又數年前愛知農林に於ける大失敗の名譽回復も出來よう實に愉快である……と既に大成功を奏した樣に僕の得意は殆んど絕頂に達した（つゞく）

雜錄

○郡林業主任會　本月七八兩日縣廳内に開かれたる郡林業主任會には各郡共林業技手若くは郡書記の出席あり力石知事の訓示に續いて安藤林務課長を議長として會議を開き諸種の協議を凝せるが左に出席者知事訓示其他參考となるべきものを摘記せん

郡林業技術員會議出席者

南佐久　郡書記　木根淵深志
北佐久　同　野々山次義
小　縣　林業技手　柴田　適
諏　訪　同　○小松　精内
上伊那　同　中村義太郎
下伊那　同　小幡　代吉
西筑摩　同　今牧　棟吉
東筑摩　同　武居喜平治
南　安　郡書記　青木　勘平
北　安　林業技手　○篠原　昇士
更　級　同　○宮田　實
埴　科　同　服部　錄爾
上高井　同　佐藤　靜郎
下高井　同　○仲俣　伍市
上水内　同　○杉本　貢
下水内　同　牛澤　宣美

因に縣よりは安藤課長の外高樋、服部兩技手、本校よりは七宮校長出席せり人名の上に○印あるは本校卒業生なり

○知事訓示　左の如し

林業ニ關スル奬勵監督事業ハ國ノ施設ト相俟テ漸次整頓ノ機運ニ向ヒ一般ニ亦森林愛護ノ思想漸ク湧發普及セントスルヲ見ルハ喜ブベキ現象ナリトス謂フ迄モナク林業ハ直接ノ生產ニ止マラズ農工業ニ對シ密接ノ關係ヲ有シ特ニ治水上ニ於テ其關スル處極メテ大ナリトス由來本縣ハ最モ廣大ノ林野ヲ有スルヲ以テ平素周到ナル注意ヲ拂フニアラズンバ稍モスレバ荒廢ニ傾キ救濟愈々困難ナラントス之レ諸子ノ努力奮勵ニ期待スル所以ナリ

一、御即位紀念事業トシテ最モ恰好ナル林業上ノ施設ヲ奬誘スベキ件ニ就テハ前年會同ノ際指示協議セシムル處アリ已ニ夫々適當事業ノ案出企畫アルベキモ今ヤ町村豫算編成ノ期近ケルヲ以テ事業執行ニ伴フ相當經費ノ計上ヲ爲サシメ名實善美ナル紀念事業ノ遂行ヲ期スルヲ要ス

二、公有林野ノ整理ニ就テハ多年勸奬ヲ怠ラザル處ナルモ尙未ダ完全ニ整理ヲ遂ゲタルモノ尠キハ遺憾ナリトス縣ハ明年度ヨリ新ニ之ガ專務吏員ヲ置キ專ラ公有林野ノ管理區分入會權整理並ニ施業案ノ編制ニ當ラシムル筈ナルガ素ヨリ少數ノ吏員ヲ以テ其完キヲ期ス可ラス、諸子亦宜シク之ニ應援シ着々整理ノ實ヲ擧ゲンコトヲ要ス

三、公有林野ニ關シテハ法規上ノ管理適

確ナラザルモノ頗ル多シ之ガ管理ヲ適確ナラシムルハ前項林野整理ノ基礎ニシテ且ツ其前提ヲ爲スモノナルニ依リ特ニ此點ニ留意ヲ要ス

四、治水上ノ施設トシテ本縣ガ多年繼續施行シ來レル保安林及ビ開墾禁止制限地ノ調査事業ハ本年内ニ大体完成ヲ見ルベク今後ハ主トシテ之ガ保護取締ニ任ジ以テ治水上有終ノ効果ヲ收メザルベカラズ然ルニ保安林編入面積ハ將來ヲ通ジテ約十万町歩ニ近カルベク開墾禁止制限地亦之ニ準ジテ多大ノ面積ニ上リ隨テ其保護取締容易ニアラズ縣亦相當考慮スル處アリト雖モ諸子モ此點ニ就テ特ニ留意アランコトヲ望ム

五、林地住民ノ副業及林産物利用ニ就テハ各地ノ狀況ニ依リ多樣ニシテ其種類多カルベキモ能ク其狀態ヲ調査シ從來ノ事業ハ之ニ改良奬勵ヲ加ヘ新ニ起スベキ適切有利ノ事業ハ相當啓發誘導スル等夫々留意アランコトヲ望ム

以上ハ林業上諸子ノ注意ヲ喚起スベキ大体ヲ擧ゲタルニ過ギズ其詳細ハ宜シク研究討議實行ニ當リ最良ノ成績ヲ擧ゲンコトヲ期スベシ

○諮問事項　左の如し

一、林業上、郡ニ於テ目下施設中ノ事業及之ガ成績並ニ將來ニ於ケル意見

二、林地住民ノ林産物利用ニ關スル副業ノ狀態

三、林野統計ノ正確ヲ期スル方法如何

四、御即位紀念事業（林業ニ關スル）計畫ニ關スル各町村ノ狀況

○注意事項　左の如し

一、町村役場ニ備付スベキ公有、社寺有林野ノ臺帳ハ常ニ整理シオカシムルハ監督上必要ノ事ナルニ往々不整理ノモノアルノミナラズ郡ニ於テモ亦此臺帳ノ整理ヲ欠キ延テ當廳臺帳ノ完備ヲ期スル能ハズ爲メニ林野ノ管理處分ニ關スル問題ノ生ズル毎ニ常ニ臺帳ノ不突合ニ付照會往復ヲ重テ煩累ナル手數ヲ要スルヿ尠カラズ仍テ將來一層臺帳ノ整理ニ注意セラルヽハ勿論現在町村及郡備付ノ臺帳ニシテ完全ナラザル向ハ速ニ整備ヲ要ス

二、公有社寺有林野ノ管理區分書、管理方法屆、施業案、施業要領等ノ諸帳簿ニシテ未ダ郡ニ備付アラザルモノ若クハ異動加除ノ整理ヲナサザルモノアリ爲ニ林野ノ管理處分ニ關スル問題ノ當否ヲ調査シ難キ實例尠カラズ是亦速ニ整備ヲ要ス

三、公有林野經營ノ指導監督ハ財産ノ監督ト調和連絡ヲ要スルヲ以テ郡技術員ニ於テモ本年四月二十八日地乙發第五〇號通牒公有林野ノ管理處分ニ關スル取扱方針ヲ孰知セラルベキハ勿論町村制上財産ノ管理處分ニ關スル法規ニ通ジ林野ノ管理經營費ノ豫算ハ其當否ヲ調査シ尙豫算ノ實行ト實際ノ事業ト一致スルヤ否技術上ニ關シ常ニ注意セラルヽヲ要ス

四、公有林野産物ノ處分ハ必ズ毎年度ノ豫算ニ計上スベキモノナルニ豐富ノ林野ヲ有スルニ拘ハラズ之ガ豫算ヲ設ケズ事實立木ノ伐採其他産物ノ處分ヲナスモノアリ此等ハ豫算編成ノ際相當注意セラルヽヲ要ス

五、又立木ノ伐採等産物ノ處分ニ關シ豫算ニ計上セルモノニシテ之ガ處分ノ許可ヲ受ケザルモノナキ樣常ニ注意セラルヽヲ要ス

六、尙立木伐採ノ如キ其實行許可ノ申請ハ可成實行期、數ケ月前ニ於テ手續ヲナサシムル樣注意セシムルヲ要ス

七、一部一區所有ノ林野ヲ町村ヘ統一シタルモノニシテ未ダ所有權移轉ノ登記ヲ了セザルモノ尠カラザルガ如シ既ニ登記稅ヲ減免セラレアルヲ以テ統一ニ決定セルモノニアリテハ夫々登記ヲ爲サシムルヲ要ス

八、公有林野造林補助ニ關スル町村ノ造林費支拂證書中事業執行ノ月日及事業種類ヲ記載セザルモノアリ檢査上差支尠カラザルニヨリ何レモ明確ニ記載セシムルヲ要ス

九、公有林野造林ニ際シ夫後賦課ヲ爲シタルモノニシテ正當ノ手續ヲ爲サズシテ事業ヲ施行セルモノアリ今後相當手續ヲ

經シムルヲ要ス

十、保安林内荒廢地復舊事業申請ニ對シテハ其事業内容工事ニ對スル設計ノ當否ニ關シテハ詳細調査ヲ遂ゲ進達セラルヽヲ要ス

隨筆

寢言

綠山坊居士

○大正三年も夢の間に過ぎて最早餘す處二十餘日となつた何時もながら相變らずの貧乏暇なしで丁度芋虫が暮の葉をのたくるが如く土龍の土をもぐるが如く有耶無耶の中に本年も暮れた世間の人は實に多事であつたとか多難であつたとかイヤ辷つたとか轉んだとか言ふて居るが綠山坊は平穩無事であつた櫻島の爆發も歐洲大動亂も日獨戰爭も靑嶋の陷落も坊が耳には蚊の呻る程にも響かない、其筈だよ世界に名高き別子山中で八年程も修業した仙人同樣のものだもの

○北越の野に活動しつゝあつた同期生三原君は遂ひに亡くなつたりうだ實に惜い事をしたものだ、君は同學中の一番小男で又一番音樂に堪能であつた樣に覺えて居る、袂別以來四、五回音信をしたが最早十萬億土の先きに居では如何に通信機關が發達した今日でも一寸便りは出來まい、して見れば愈々校友會から送つた壹圓の香奠が友誼の帳消となつた譯かな

○三原君や下細君が死んで思ひ出した譯ではないが校友が死だ時に校友會から送る香奠としての金壹圓は何だか物足らない樣な氣がする、何も遺族や親類の者が校友會からの香奠を當にして居るではなし、又極樂や天國へ旅立つのに別段旅費の必要もあるまいし、要は校友としての誠意が死者に通すれば充分であるから全額の多寡を論ずる必要はないと云ふ人もあろうが理論は別として四百有餘の會費を有する校友會からの香奠としては一寸物足らない樣な氣がすると云ふのみだ全額を少しでも增すことが出來れば今後の分は增して戴きたいと思ふ

○過日事務所に於て食後小閑を偸んで十一月號林友會報を見てゐた、丁度其處へ同勤の松本中學出身の某君が來た坊が讀みつゝある林友會報を見て

某君曰く……山林學校は仲々偉いね斯く卒業生にまで一々會報を配るとは……

坊曰くフウン山林學校出身者は自慢ではないが○式が澤山あるからね……

某君曰くイヤ〳〵其れは君のホラだよ僕は此春歸省した時に同鄕の山林の生徒とも話したが其生徒が言ふのに『卒業生が會費を納めないから在校生が雜誌の費用を負擔しなくてはならない實に困るよ』と言ふたよ坊曰く其樣な馬鹿な事があるものか……と二人の談話は之で濟んだが果して在校生の誰かが言ひしことが事實とすれば在校生諸君は實に御迷惑の至りだ勿論卒業生が會費を納めないからと言ふたとて卒業生全部が納めないと言ふ譯ではあるまいが縱令一人でも不納の者があれば校友會から督促して頂き度いものだ。卒業生の大部分は實に多忙なる公務や家業に從事して居ることだから知らず〳〵忘れて居るものが無いでもあるまい坊などは實に忘れ易い性だから昨年だか一昨年氣の付いた時に四五年分納めた積りでゐるが確と記憶がない今頃會費切となつて居るかも知れない、何も承知しつゝ不納でゐる譯ではないから會費切となつた時には乍御手數通知して頂きたいものだ卒業生が會費を納めないからね—。

と言ふ樣な小言は聞き度くないからね—

（十二月七日夜半）

評論

辯論會に臨んで

（十二月十二日）

總會は終つた。吹雪にするのではあるまいかと人々は恐怖を懷かしめる、殘忍な眼附きをした灰黑い雲と、沈默した野邊に沈んだ灰色の空氣との、恐るべき威力の壓迫に戰いてゐる講堂には、吾百五十の健兒が、

幾つかの火鉢の廻りに押し合ひながら、固く自己を取守つてゐる。

かうした冷い會場を、僅か五尺の小軀に籠められた熱と力とを、單に一個の舌から呼き出して沸騰させる、辯士諸君の力は、讃稱に價する。

僕は諸君を慰勞のため、又一層の努力を願ふため、愚鈍な吾耳、吾眼に刻まれた印象に狂染みた感想を付して、拙い筆もて書いて見よう。

一、旅行土產　　內藤善助先生

長い視察旅行を終へられて歸つたばかりの公務の御多忙な時にも係らず、わざ〳〵この壇場に臨まれて貴い御土產を御頒ち下された御厚意に對して、吾々は衷心より感謝する。

二、時勢觀　　伊藤正之助君

君の辯論を語る前に、辯論家としての君の價値――本校に於ける――について一寸言つて見度い。僕一個の意見として見るときに君は都竹武次郎君と並んで吾校辯論壇の兩雄だと言いたい、うして力ある辯論家として君をうの首位に擧げて見度い。

あまり失敬なことを口走つて了つたかも知れない默許して呉れ。今度のは問題が問題だから致し方もあるまいが、どつか切れ切れな嫌と、上づつた弊とがあつたやうだけれどもうの態度、音聲共に批難の點を認め難い、緊切な言葉が豐富になつたのも慶賀すべきことである。

三、眞の戰捷國とは何ぞ　　拓植五郎君

伊藤君の後繼者として君は少々貧弱な氣味があつた。伊藤君に吸收せられてゐた聽衆が伊藤君の降壇と共に寒さに戰く自己に歸つて了つたのでもうれと知れる。而かし君が辯論家として力ない者だといふのではない。もつと力と熱とを出して貰ひ度いと願ふ。

四、所感　　岡戸郁二君（卒業生）

君が近頃に於ける感想を述べられた。こうした傾向も吾辯論會のため喜ぶべき現象の一つであらう。（これにて晝食）

五、　　長坂清人君

拍手喝采、次いで彌次馬の叫びでつい演題を聞き落して了つた。なんでも乃木將軍とか、カアライルとか、トルストイとかいふ固有名詞が美文諸誦かと思はれる美しい辭と一緒に、所謂舌頭流水といつた貌で並べ立てられてゐた。けれども彌次連の間から起る騷々しさで遂ひ核心を聞き取れなかつた。

終りに臨んで君の爲めに言ふ『君はあまりに才子である』と。然る後に言ふ『あの飾り過ぎた美しい辭は丁度やさしい小鳥の囀りのやうで、ぴり〳〵と吾々に迫つて來ない、あの氣取つた態度も時に滑稽さを人々に思はせる丈で大した見榮にもない君よあんな活動寫眞の辯士の下稽古のやうなことは全然打ち捨てゝ、質素な而も力强い眞に雄辯家の卵だと人々を驚嘆させるやうな所に向つて猛進しなさい。』かう言ふとあまりに君を惡く言ひ過ぎたかも知れないが眞に自分が衷心君の爲めに發した言葉だと思つて深い自己省察をして貰ひ度い。どうしても僕が間違つて居たら御寬恕を。

六　　種倉隨造君

君は何時も滑稽な言ひ方をする、誰やらが講談師だと言つたのも無理はあるまい。しかし講談師のやうな遊戲的な所のない眞面目な內容を以た說を論ずる所に君の價値がある通俗講演なんかには持つて來いの演說法であらう。

七、社會と人格　　黑崎洋治君

本會々員になつてからもう三年になるのに而もこの壇上に立つは最初だといふ。それにしては先づ成功の方でせう。惜しいのは音聲の徹底しないことだ聽衆とある隔壁を作つたのも努力を要する點だらう。

八、非結婚非晩婚主義　　東原智君

『晩婚に非ずんば結婚にあらざる主義』こう讀み下したなら、うの如何に吾々の私生活に取つて緊切な問題であり且社會風紀上重大な事柄であるかは知られやう。

君の辯は沈み切つてゐる。冷に切つてゐる煮に立つ所がない。沸き立つ所がない。しかし音聲の中にこもつた力は或る程度迄うかがはれた。

九、世界的發展とは何ぞ　　奥村利一君

君も新手だ、努めて止まずんば發展し得る所が閃めいた。

十、寡言實行　　柳澤得衞君

溫健な說、溫健な言ひ方、といふより外別に此れといふ所も見になかつたまづ無難

十一、演說法　　古畑今朝茂君

「人氣のあることに於て本論壇第一」といふと如何にも偉さうだが。實はさうぢやない小形な所謂珍品といふ丈。

十二、眠き目をこすりで見れば煙立つ、
ゆふべの點火うまくつきたり。　　北村正夫先生

北村式八德竈の特徵を例の長廣舌を以て遺憾なく述べ立てられた。希はくは吾北村先生をして永久にあの誇を有せしめよ。

十三、師弟間の關係を論ず　吉川眞夫君

北村先生から製炭慰勞のために送られた菓子が會計部から出されて今それを食ひ終つた聽衆は漸く飽いた。君は壇上に立つた。けれども一瞥をも與へぬ。こうした時眞面目に論ずる君が心中、同情に堪へない。

君の辯や態度にはどつか氣取り氣味がありはしないか。

十四、忘年會の意義　田近善右衞門君

意氣の壯と、音聲の高調とに於て本壇場君は及ぶものはない。惰氣の滿ち〳〵た會場を再び緊張せしめた手腕は實に敬服に堪へない一旦席を離れた人々が再び歸つて來たのを見ても君の眞價は覗はれよう。

次で今井副部長の閉會の辭、これで今日の會は終つた。僕は近頃に於て最も緊張した會だと思ふ、勿論その間度々弛みかけたけれど、再び盛り返した勇者があつたから而し僕は此れを以て滿足し得ない、もつと緊張した、もつと力あり熱あるもつと雄壯なものにしたい。

僕がこの辯論會に向つて最も遺憾に思ふのはあまりに嘔吐說の多いことである。嘔吐といふのは他人の說を咀嚼もしないでうの儘呼き出すことだ。（僕も今迄こんなことをたま〳〵やつたが）貧弱でもよいから自分の思想、自分の意見を論述した方が、それの辯士諸君のため又吾辯論會の爲め、どれ丈利益であらう今更僕がこんな所で並べ立てる迄もなく諸君は總てうれを知つて居られるでせう。けれども受賣式が惡いといふのではない一旦自分のものとして然る後にせないと云ふのであるそれから今一つ力と熱とを要求する。あまりに萎れたやうな辯士が多過ぎる。下手でもよい、唯力あれ、熱あれうこに靑年の辯論として辱しからぬものが出來るであらう。

あまりに長く書き過ぎた。左樣なら

（ガン吉）

通信

學校便り

○征矢助手赴任　前號所載の通り除隊せられし卒業生征矢朴郎君は舊臘十四日左の如く辭令ありて林君の後を襲はれたり

命木曾山林學校林業助手　　征矢朴郎

○擊劍部の級別　擊劍部員四十餘名に對し敎士顧問並に役員詮衡の上會長の決裁を經て夫々技倆に應じ二級中より五級上迄の級を附與し十八日發表せり

○校內大掃除　十八日午後は生徒全員職員指揮の下に校舍內の大掃除を行ひたり

引續き寄宿舍內の大掃除を行ひたり

○終業式　十九日午後二時より本年の終業式を擧行し校長よりは過古一歲の追懷と尙休暇とに關する數件の訓示ありたり

○冬期休暇　二十一日より翌一月二十日迄休暇の爲生徒各自は二十日の日曜朝より夫々歸省せり　（以上昨年十二月分）

○始業式　一月二十一日午前十時職員生徒講堂に參集　校長より新春に際しての注意及時局に對する覺悟等に關し訓示ありたり

○寒稽古開始　二十三日午後より擊劍部主催の寒稽古を開始す　部員を二分し未明よ

り六時半迄及午後三時半より四時半迄の兩度に分ち稽古を行ふ筈也

會員消息

○新田穰君は去る十二月一日岐阜歩兵第六十八聯隊第三中隊に入隊の由先月通信ありたり

○服部啓次郎君は今回本縣林業技手に任せられ林務課勤務を命ぜられたり月俸二十圓

（十二月九日發令）

○溫井誠一君は昨年三月中鳥取縣廳へ轉任せる旨此程石川縣辻敬二君より通信あり

○坂田勘太郎君は今回高知縣安藝郡馬路村ヤナセ官行斫伐事務所に轉勤

○征矢朴郎君は十二月十三日付を以て本校林業助手に任せらる

○神作四郎君は昨冬佐倉歩兵第五十二聯隊第八中隊へ入營

○鹽川金次君は近衛歩兵第三聯隊第三中隊に入營

○代田文之助君は先年一年志願兵として豐橋第六十聯隊に入營昨冬除隊の筈の處尙續いて勤務の由

○久保田傳一郎君は今回飯田出張所より木曾支局に轉勤

○篠田秀平君逝く第三年生篠田秀平君は昨夏より二豎の冒す所となり歸鄉し其後中津川病院に入院治療を受け一時は頗る輕快を告げたるに昨今病勢再びつのり正月三日遂に永眠せられたり誠に哀惜に堪へず玆に謹みて深悼の意を表す

右に付校友會よりは例により香奠として金壹圓弔辭に添へて嚴父宛贈呈せり

○川崎本雄君本月十日東京より歸鄉折しも近年の大雪に會し好機逸すべからずとなし スキー練習を企て七宮校長始め島内、福山二教諭も之に參加し十五日川上溫泉附近に於て終日演習し頗る愉快なりし由

蘇門會便り

石　公

時は乙卯の一月六日夕六時長野市西洋軒に蘇門會を開く檄に應じて集ひ來れるは次の十有四名とゞ註せらる

主賓前校長安藤林務課長　同七宮現校長を筆頭に上田小林區署齋藤正雄上水内郡役所杉本貢　諏訪郡役所小松精內　北安曇郡役所篠原昇士　更級郡役所宮田實　下高井郡役所仲俣伍市　長野小林區署岡田恒治　金井澄水　縣廳服部啓治郎　久保田吾良　渡邊知則及び高樋博

先づ入口には大アーチならぬ白紙二枚大の制札を示されける

制札の事

一、來會者は一生一度の氣焰を擧げる事

一、滿を引いて諸事無禮講の事

蘇門庵執事

之れゞ會同十四名の强制服務の條々とぞ知られける

席定まれば花と嘔はるゝ三十九歳になつた許りの蘇山君年長者兼幹事の資格を以て開會の辭を陳ぶ、例により式辭としては一向要領を得ずして加かも要を得たる同君獨特の愛嬌にギャマンの盃は重なり哄笑屢次快話愈々佳境に入らんとしホークナイフの音も驚て賑かならんとする時突然思ひ付きし樣の發言ありて俄に名乘りを擧ぐる事となりしぞたかし幹事の心ばかりに企てし林友誌投書の一人一句集も興に乘じて二三句も駄句りしもありし樣なり

蘇門會萬歳　何々萬歳……と三四度も棟梁の搖がん騷ぎの後あちこちの氣焰も擧りし樣なれども接待係兼幹事の蘇門庵執事が制札の條々を總代にて完全に窮行すべく主賓の御退散も犢ふべき遠來の客の半分許りも退去するのも知らで快氣焰を擧げ强いられて何かの萬歳に音頭取りを爲せし樣なれども之れも覺えぬ迄に仰りしは笑止なり

夕暮六時半頃より深夜十二時半迄頭割り僅々One yen許りの安會費にてコンナ大騷ぎをやられしは同軒創業以來二十餘年のレコードなりとは蓋しボーイ供の戲言のみにはあらじ……

次は一人一句集より……

諸共に織なす木曾の錦には
榮ゆる色の濃くもあるかな　珍竹山人

卯の年の蘇門會で狸腹テーブルのあたりのどかにまどふ蘇友の笑みの雄々しさ急ぎ々々來て見れば電燈の光照りいて渡知生

【純】ホークの音曾山子

同ト學び舍出でにし友の
まだ來て居るは一人のみ

澄水

來て見れば知らぬ蘇友が多かりき今日の春　恒治

五木くさいぐ今宵の會は　蘇山

我が家から急いはづだよ來たは何故かくさいはづだよ蘇門會

何故かとはそりやひどい　洋舟生

雜煮腹ひ語りて笑ふ數々は　昇士

見て笑よりや蘇門腹

何れも木曾の昔かたらふ　鶏助

馬鹿丁寧ベコ〳〵するは蘇門會

親なれば兄弟なれば初見にも

大に食つて飲んで歌はん　變竹山人

樂しきや一月六日蘇門會

さぎとからすのうでくらべ　樂天

きたばかにあいさつもなくまづ一杯　實

世の中にうれしきものは數あれど

今日のまどひに越すものはなし　呑天

……執事申す……來年は一月四日午後五時開會す一年前に豫報せば不服もあらざるべし……呵々

本年は諒闇中の事にも有之尙御轉住の御君には御住居不明等の爲め年賀狀差控候向も有之當方頂戴の際は餘りに時過ぎ失禮致し候もの不尠此方失禮の段平に御寛怒願上候

高樋生

【雜報】

○林、安井、川崎三氏の禮狀　昨年末同上三氏に對し謝恩金贈呈の處夫々校友會宛左の通り禮狀を寄られたり

恭しく新年を迎へ貴下の萬福を祈り上候尙客歳小生木曾山林學校退職致候に付き多大の御同情を以て慰勞金御惠與に預り難有拜載仕候尙今後共不相變御厚誼相願度御禮迄如此御座候　敬具

大正四年一月一日　林重郎

拜啓嚴寒の候各位益々御清榮奉賀候陳ば小生退職に付紀念品料として金參拾五圓四拾五錢並に寄附諸君芳名簿御贈與に預り難有拜受御芳情の程萬謝候乍略儀本誌上を以て御禮申上候　敬具

大正二年十二月卅一日　安井正夫

尊翰拜誦仕り候上京後御無沙汰に打過し候段平に御海容下され度候其後も益々御多祥の御事と奉遙察候扨て小生退職慰勞金として校友諸君の御同情般の金圓御惠與被下候ことは過分の儀による多額の金圓は共有がたく頂戴仕り候乍然小生が御校奉職中の事を顧ふに遂に一の爲す事もなくして如斯御同情を蒙り候事如何にも厚顏の所爲にして冷汗止みがたき思あり候殊に御名簿中には校友として先輩諸君も有之一層心苦しく存ド候就ては右金圓を校友會の爲めに有利に利用致しせめて小生が不德の一端を補ひ度と種々考慮致し候結果近年校友會內に新設せられたるスキー部に寄送致しスキー場新設費の一部と致し度と存じ候

校に於けるスキーは小生の新設を以て始まりしを見て遂に校友會內にスキー部にては未だ適當なるスキー場（練習場）なきを爲め角の冬季木曾地方唯一の遊戲運動にしてまた積雪地方の森林監視に關係あるスキーは困難の事と存じ候依つて右金圓を加へたる爲めに一層良好なる練習場を得る事を得あらせらるゝ事とは承知し候へ共經費多端なる校友會內にスキー部のみ特別の發展は充分なる發展を見るを得ざるは遺憾に御座候尤も來年は本年より發展の御計畫も當路の役員諸子に相當に發展の御計畫も當路の役員諸子に

また場所は雪中の事なれば草山等ならば殆ど無償借用もなし得るかとも存じ候練習場出來の上は小生も寒中歸鄉致し研究致し度存じ居り候

とに角前申上候主旨を以て右金拾圓拾錢送金申上候間可然御取計ひの程願上候猶名簿の諸氏へは一々御禮申上べき處には候へ共略して林友誌上を拜借し御禮に併せて右の事情御傳達方御手數恐入候へ共之亦適當に御處置の程伏して願上候

乍末筆諸先生に宜しく御執成被下度先以て右御返事旁々要件まで如斯に御座候　敬白

十二月八日　於東京　川崎本雄

寄贈書及寄付金

一、三重縣林業要覽一部　寄贈　木村鍬太郎君

一金拾圓參拾錢　（但しスキー部へ）　川崎本雄君寄贈

雜誌費領收報告

金參拾六錢　藤卷壽一君
金壹圓四拾四錢　辻敬二君
金五拾錢　宮川永三君
金參拾六錢　盧澤英一君
林氏へ寄贈追加
金壹圓　平田稻雄君
金壹圓　坂田勘太郎君
金五十錢　（即）市川豐二君
金五十錢　（即）宮川永三君
安井氏へ寄贈追加
金五十錢　坂田勘太郎君
金五十錢　（即）宮川永三君

安藤前校長慰勞金申込報告（第三回）

金貳圓　（即）家高甚一君
金壹圓　長谷部眞一君
金壹圓　平田稻雄君
金壹圓　坂田勘太郎君

金壹圓　即　中村豐治君
金壹圓　即　市川豐二君
金壹圓　即　細江七兵衛君
金壹圓　即　田中榮一君
金壹圓　即　千澤柳壽夫君
金壹圓　即　新田忠次郎君
金五拾錢　即　武久貞一君
金壹圓　即　松舘藤太郎君
金壹圓　即　宮川永三君
金壹圓　即　中垣英一君
金壹圓　即　今井安男君
金壹圓　即　原喜四三君
金五拾錢　即　塩澤英一君
金壹圓　即　野知里慶助君
金壹圓　即　寺島俊一君
小計　拾九圓五拾錢
累計　四拾壹圓也

特別廣告

諒闇中ニ付年賀缺禮仕候

大正四年正月

木曾山林學校職員一同
同　校　友　會

追て新年に際し學校並に校友會宛に年始狀を寄せられし諸氏の芳名を掲げ玆に謝意を表す

附言　順序不同　尚御芳名の右上に○印を附せしは學校及校友會ともに寄せられし諸氏也

關琴義君　深美利一君　渡邊知則君　宮崎二朗君　小池新伍君　遠山一郎君　不兎修六君　久保照人君、丸山金三郎君、原七郎君、塩澤英一君、杉本貢君、○柳澤熊治君　市岡淳一郎君、岡戸彌兵衛君、嶽野利雄君、久保田吾良君、辻敬三君、○吉田佐十郎君　丸山久雄君、永井順君、乙谷耕吉君、木下清君、小瀧升太郎君、南村末吉君、成瀨義郎君、田中吟重君、高野金作君、新田忠次郎君、坪倉藤三郎君、伊東兵太君、温井城一君、武久貞一君、遠藤治一郎君、平田稻男君、○一之瀨袈裟壽君、○宮澤嘉一君、今井安男君、宮川昌平君、林與五郎君、○倉科浦一郎君、原喜四三君、仲俣吾市君、○關谷靜夫君、○松澤莊太郎君、松上三郎君、○小羽根安治君、上田彌太郎君、横山治人君、竹内房太郎君、○南勝右衛門君、原潔君、○臼井辰雄君、○市川豐二君、金井澄水君、藤田要吾君、新田穰君、田中榮一君、原田義治君、廣瀨靜之進君、長谷部兵治君、千村萬三君、古根是君、宮崎惠喜太君、多田慶次郎君、伊藤昇士君、小崎次郎君、森巖君、小藤作四郎君、小谷益實君、○小林哲三君、松本清太君、○二木季人君、吉池三九郎君、山下常紀君、本多清右衛門君、加藤朝太郎君、江崎熊太郎君、兒野榮君、○木村康明君、前田正義君、千村吉雄君、澤柳壽夫君、仲田惠令君、鳴澤義男君、柳澤義雄君、福澤桃十君、○河野長六君、竹原久治君、○大久保五衛君、古畑七三君、大嶋角藏君、○福田友次郎君、宮田實君、服部啓次郎君、輪湖正由君、長谷川義雄君、宮澤清輔君、上條嘉一郎君、岩瀨幸吉君、○中垣英一君、上原上君、鷲澤忠治君、篠原昇士君、北澤時三郎君、天野德君、古畑今朝茂君、中畑佐耕君、柳澤邦信君、大脇又衛君、林省三君、長谷部眞一君、大澤國男君、佐々木久一君、等々力官一君、木下稗藏君、長谷川要次郎君、倉澤建雄君、高木本枝君、田中泰吉君、柏澤國治君、清水森藏君、蘇峽會一同、若林遊龜尾君、岡戸廣治君、神作四郎君、○代田文之助君、○鹽川金次君、黑河内祐紀君、小田寶君、田近善右衛門君、柳澤得衛君、有賀正一君、伊藤正之助君、藤原近而君、小松精内君、松舘藤太郎君、宮森太一郎君、小林柱一郎君、池野萬次郎君、赤羽高君、小山田喜十郎君、松川久吉君、中村豐治君、竹村節三君、上田鉞二君、坂本光太郎君、丸山岩吉君、山村次一君、上田高等女學校職員御中、下高井郡立農林學校職員御中、早川一雄君、西筑稅務署員御中、野村光智君、戸田績君、鳴田勘四郎君、池田仲治君、下村博君、近藤幸吉君、倉澤眞君、西尾長一君、上水内西部農學校職員御中、坂田勘太郎君、水橋要作君、丸山嘉一郎君、脇田義正君、山下太良君、新家敎諭、加茂憲太郎君、安藤良三君、下平佐門君（以上）

大正四年一月廿三日印刷
大正四年一月廿五日發行
（定價三錢）

長野縣西筑摩郡福島町四〇四番地
編纂兼發行人　安井正夫
長野市南縣町巳三番地
印刷者　田中彌助
長野市四后町乙二十一番地
印刷所　長野新聞社活版部
長野縣西筑摩郡福島町二八九番地
發行所　鹽澤書店